

人形劇 2016年 回顧



CREDO THEATRE (クレディアター)
『The Overcoat (外套)』



THE LAST GREAT HUNT
『It's Dark Outside おうちにかえろう』
撮影：羽鳥直志



多彩な人形劇とオブジェクトパフォーマンスが咲き乱れた 2016年の愛知を振り返って――

2016年の話題は、何といても3回目の「あいちトリエンナーレ2016」だった。内外の数多くのパフォーマンスが上演され、その一翼として、人形劇の存在もこれまで以上に注目されたように思う。関連企画として、愛知人形劇センターと損保ジャパン日本興亜が共催で、「人類と人形の旅 human with puppet」を開催し、文案人形オペラ「おさん伊八〜睦月連理玉椿〜」(台本・演出:齋藤敏明、音楽:くりもとようこ、8月)という意欲的な作品を発表したほか、内外の優れた作品をひまわりホールで連続上演した。さらに、損保ジャパン日本興亜名古屋ビル1階で、「ひょっこりひょうたん島」(人形制作:片岡 昌、人形劇団ひとみ座)や「平太郎化物日記」(人形制作:飯室康一/山田俊彦、ITOプロジェクト)などの人形も展示され、美術としての人形の魅力もアピールした。

それだけではない。主会場の愛知芸術文化センターで上演された海外からのパフォーマンスに、モノを動かして想像力をふくらませるという人形劇の手法を取り入れた作品が上演され、そうした手法がパフォーマンスの世界的潮流になっていることも示したのだ。ブラジルのダニリマ・カンパニーによる「Little collection of everything (放課後の小さな宝箱)」(演出・振付:ダニリマ、8月)は、バケツや扇風機、カバンなど日常的に身のまわりにある沢山のモノを散りばめた舞台上で、4人のパフォーマンスが次々とごっこ遊びをしていく。それらによってモノの既成の意味を解き放ち、別のイメージと価値を生み出す面白さを示した。また、フランスのカンパニーDCA/フィリップ・ドゥクフレの「CONTACT」(演出・振付:フィリップ・ドゥクフレ、10月)は、マジカルな映像やサーカス芸などさまざまな手法を取り入れたダンス・シアター・スペクタクル。ゲーテの「ファウスト」を基にした作品だが、目眩がするほどの華やかなイリュージョンの連続で、楽器演奏や歌なども交え、自在にコミカルに展開した。とりわけ、頭部を衣装で包んだ身体で花を表現するなど、人間の身体をモノ化することで、驚異の夢幻性を生み出した。

「人類と人形の旅」で上演された、ブルガリアのCREDO THEATRE (クレディアター)による「The Overcoat (外套)」(原作:ゴーゴリー、演出:ニーナ・ディミトロヴァ、10月)も、別の意味で驚異的だった。二人の俳

優によるゴーゴリーの小説の舞台化だが、全編を巧みな日本語で上演したのだ。苦心惨愴して新調した外套を、その夜に奪われた貧しい下級役人が、自殺して幽霊になったという物語だが、それをこの舞台は、その幽霊を捕まえ損ねた2人の狩人が、法廷に引き出されての証言として展開する。クラウン芸を駆使した2人がコミカルに舞台を運びつつ、ボロ布や棒、板きれなどで人形や取り巻く状況を作り、明快に物語っていく巧みさ。そうした手法のミックスは言葉を省略していく力を持つが、この作品は、それに言葉を重ねたことで、強固な演劇世界を創り上げた。そして、貧しい狩人たちが貧しい役人の話を物語ることで、帝政ロシアの圧倒的な貧困の悲劇を、とぼけたユーモアの内に示しつつ、幽霊は自由だと繰り返すことで、悲痛さの果ての魂の解放を浮かび上がらせた。

あいちトリエンナーレ以外にも魅力的な舞台があった。オーストラリアの若手創造集団THE LAST GREAT HUNTによる「It's Dark Outside おうちにかえろう」(作・演出:ティム・ワッツ/他、5月)だ。言葉のまったくない世界だったが、こちらもある追いつめられた状況での魂の自由を語る作品だった。認知症になった一人暮らしの老人が、見知らぬ男に追われていると思込み、家を離れ旅に出る。彼の中でそれはいつしか、荒野をさまようハンターの西部劇のような冒険物語になっていく。手元にあると思っているカップに手が届かないなど、老人の身体の不自由さと孤独を示したあと、彼の心の世界に入る運びだが、仮面や人形、影絵、アニメーションなどを駆使して、その想念のリアルさと幻想性を見せていった。そしてそれらを操作する操り手たちが、老人を優しく介護するさまとして見せたことも新鮮で、確かなメッセージを伝えた。

地元作品としては、人形劇団むすび座の新作「アラビアンナイト〜魔法のランプと明日のヒカリ〜」(作:吉田篤司、演出:大野正雄、2月)があった。魔法のランプを与えられた貧しい少年が、ランプにひそむ魔神の力でひととき大金持ちになるが、そのランプと母親を王様に奪われ取り返そうと闘う物語。巨大な魔神や、空飛ぶ絨毯に乗った少年が客席を駆けめぐると、むすび座らしいダイナミックな手法で、愛と勇気を歌い上げた。

安住恭子(演劇評論家・演劇プロデューサー)



「人類と人形の旅」human with puppet関連企画
人形美術家展よりITOプロジェクト「平太郎化物日記」



「人類と人形の旅」human with puppet関連企画
特別展示「ひょっこりひょうたん島の世界」

2017年度 愛知人形劇センター主催事業一覧

7月1日(土)・2日(日)

劇作家とつくる短編人形劇2017

名古屋の若手劇作家・演出家として活躍する二ノキノコスター(オレンヂスタ)、外山博崇(星の女子さん)、吉田光佑(room16)の3人によって本企画のために書き下ろされた、短編人形劇3作品の公演。

7月30日(日)

ひまわりホール海外招聘企画

Staffed Puppet Theater(オランダ)公演

『“Mathilde”マチルダ』(日本語字幕付)

とある老人ホームを舞台に繰り広げられる、やさしさと残酷さ、希望と絶望に満ちたストーリー。

10月8日(日)・9日(月・祝)

ひまわりホール

子どもアートフェスティバル2017

人形劇のみならず、演劇、音楽、パフォーマンスなど、日本中から集まった子どもたちのための舞台作品が、ひまわりホールのあるオフィビル全体で一斉上演。



10月27日(金)〜29日(日)

愛知人形劇センター30周年プレ事業「小町曼陀羅」

作・演出:木村繁

2018年2月4日(日)

P新人賞2016受賞記念公演

P新人賞2016を受賞した「影の色彩 ワヤプロジェクト」の新作お披露目公演。

2018年2月17日(土)・18日(日)

P新人賞2017最終選考上演会

(文化庁委託事業「平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

2018年3月24日(土)・25日(日)

ひまわりホールパペットパーク2017

P新人賞2017募集

賞金:20万円

第一次締切
2017年9月15日(金)

最終選考上演会(公開開催)
2018年2月17日(土)・18日(日)

※文化庁委託事業「平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

大好評のP新人賞、今年も開催! 多くの皆様のご応募、お待ちしております!!



人形劇団むすび座
『アラビアンナイト〜魔法のランプと明日のヒカリ〜』 撮影:清水ジロー

特定非営利活動法人
愛知人形劇センター通常総会のご案内
定款第24条に基づき、以下の日程にて2017年度通常総会を開催致します。
日時:2017年5月14日(日)14:00〜
会場:損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール